

○3番（枝 史子君） 改めまして、こんにちは。議席番号3番、枝史子です。傍聴席の皆様におかれましては、足元の悪い中お運びくださいまして、誠にありがとうございます。

それでは、議長により発言の許可をいただきましたので、通告に従い一般質問を進めてまいります。私の今回の一般質問は、給食センターの老朽化について。かねてから老朽化が問題視されているが、建て替えは待ったなしの状況だと考える。具体的な着工のめどは立っているのか、町の見解を問うというものです。

まず、この問題を取り上げるに当たり、皆さんと共有しておきたい点があります。それは、この給食センターの老朽化問題は今に始まったことではないどころか、かれこれ20年近く前にはもう既に指摘されていて、何度も一般質問で取り上げられてきたということです。給食センターが完成したのは昭和46年、1971年です。今から54年前、一応強調させていただきますが、給食センターは私よりも年上です。過去の議事録ざっくりと当たってみましたが、今から19年前の平成18年、2006年の定例会において、まだ議員だった頃の現橋本町長が、この給食センター老朽化問題を一般質問で取り上げています。この時点で、給食センターはもう既に築35年となっていたところから、当時の橋本議員、現町長ですけれども、町長は、老朽化が著しく本来なら建て直さなければならないレベルだ、給食が止まつたらどうするのだと危機感を募らせていらっしゃいました。また、それから2年後の平成20年、2008年の定例会では、後ろにいらっしゃいます倉持現議長も、同じように給食センター老朽化について一般質問に取り上げており、センターを使っている方からすれば、いつも冷や冷やして調理している。子供たちに安心安全な給食を届けていくのが町の務めだと、当時の野村町長を追及していらっしゃいます。そこからさらに時代も下って、令和3年、2021年の定例会では、当時の櫻井実議員の質問に対して橋本町長が答弁していらっしゃいます。この答弁の内容をまとめますと、町長就任以来一番の懸念は、人口減、財政、交通弱者であり、施設では給食センターと図書館、その上で公共施設の再配置計画並びに公共施設のマネジメントを議会とともに町がしっかりと立てた中で、どれを優先的に造っていくかを検討していくかなければならないとおっしゃっており、この答弁を読む限り、町長の考えは就任当初から現在に至るまで一貫していて変わっていないこと。そして、給食センターを建て替えなければならないということは、ずっと考えているということが分かります。けれども、考えているだけでは実際に建物は建たないわけで、現状どのようになっているのかを把握したいと思い、先日実際に給食センターを見学させていただきました。そうしたら、想像以上に問題が多く、切迫した状況ではないかと感じました。実際に行って、見て知ったことですが、まず調理場にはエアコンがありません。そして、スポットクーラーは辛うじて設置されていますが、風が吹き出しているところしか涼しくありません。この夏、猛烈に暑かったと皆さんご存じだと思うのですけれども、それなので調理員さんは、よく外でお仕事されている方が着ているような空調のついた、ファンのついたファン付ベストを着て、さらに保冷剤を両脇の下に結わえるなどして暑さ対策を工夫して仕事をしていらっしゃいました。そして、調理施設も老朽化しており、中にはもう壊れたら部品が取れないものもあると

のことでした。子供たちのお昼御飯を担う給食センターが、今現在このような状態であるということを、こちらにいらっしゃる皆さんにはご存じでしたでしょうか。

このような現状が、どのような面に問題を引き起こすと懸念されるか、3つ取りあえずまとめてみたのでご説明しますと、まず1つ目に、労働環境が挙げられます。この猛暑の中、毎日誰かが熱中症の症状で早退するというような事態、空調ベストを着るようになってから早退はなくなったのですが、人が倒れなくなったからそれでよしというものではないと考えられます。本当にこれは苛酷な労働環境と言えるのではないでしょうか。

続いて、2つ目に衛生面。1つ目の労働環境と関係するのですが、文科省の学校給食衛生管理基準によりますと、調理場の温度は25度以下に保つよう努めると記載されております。けれども、この環境下では25度以下など守れないというのは明らかではないかと思います。つまり、学校給食の食中毒予防のために定められた基準から大きく外れてしまっている、人にも、そして食品にも苛酷な環境の中、給食の衛生面を管理するのは本当に大変だと懸念されます。

そして、3つ目は安全面。さきに取り上げた衛生面も、結局はこの安全面と結びつくのですが、建屋だけでなく、調理施設も老朽化しているということは、もう部品を取れないものが今日明日にでも壊れるというリスクを抱えているということです。また、老朽化している調理設備は、それだけで破損部品の混入のリスクが高まると考えられます。これらは、危機管理の面から考えても重要な懸念材料と言わざるを得ません。そもそも老朽化した給食センターで安心安全な給食を提供しようとすれば、老朽化していないセンターでの調理よりも神経をすり減らし、余計な労力をかけないと達成できないのではないかと考えられます。

このように余計な労力を割かれてしまうと、本来かけるべきところにかける労力が手薄にならざるを得ず、それが給食の質の低下を招き、最終的には実際に食べる子供たちにしづ寄せが行くのではないかと考えられます。このような現状を見て考えると、給食センターの建て替えは待ったなしの状況であるということが言えるのではないかと思います。ただし、だからといって最短で、今この瞬間から一から建て替え計画をつくり始めたとしても、来年すぐに給食センターが完成するわけではありません。学校給食施設計画の手引きという冊子があり、私も持っているのですけれども、それによる計画から稼働開始まで6年かかると説明されています。計画の立て始め、どのような計画、つまり手作りの献立を多くしたいのか、それとも省力化のために冷凍食品オンパレードにするのか等のコンセプトを決めることから始まり、それに見合った調理設備を選定し、それらのレイアウト、動線を考え、それから土地を選定しというところまでやっていくと、最終的に6年もかかってしまうということだそうです。すると、新センターが完成するまでの6年、今のセンターに手をかけないでおくと、今のこの環境で6年間調理を続けるということになってしまいます。その選択は、なかなかリスキーなのではないかと考えます。であるならば、給食センター新設について早急に計画を作成し、実行に移すことと同時に、現給食センターへのエアコンの緊急設置と、今のセンターの作業環境の整備にも重

点的に予算をかける必要があるのではないかと考えます。

そこで、今回の質問ですが、改めて、かねてから老朽化が問題視されているが、建て替えは待ったなしの状況だと考える。具体的な着工のめどは立っているのかということについて、町の答弁を求めます。

以上、私の1項目1点の1回目の質問を終わります。

○議長（倉持 功君）　ただいまの給食センターについての質問に対する答弁を求めます。

町長、橋本正裕君。

〔町長　橋本正裕君登壇〕

○町長（橋本正裕君）　それでは、枝議員さんのご質問にお答えする前に、給食センターの修繕や、それから備品購入、今まで僕がやってきたやつを配らせていただきたいと思いますので、議長、よろしいですか。

○議長（倉持 功君）　はい、どうぞ。

○町長（橋本正裕君）　今配らせていただきますけれども、申し訳ないですけれども、僕はやってきたわけです、ずっと。表面だけ見て、いつも頭悩ましい人はいいなって僕は思いました。言い方悪いかも知れないけれども。幾らかかると思っているのですか、この給食センター。お金はどこから持ってくるのですか、それでずっと悩んでいるわけです。だけれども、子供たちの給食は、学校の先生たちが何て言っているか知っています、境町の給食。境町はいいって言われているのです。僕らではないですよ、先生たちが回ってくるではないですか。回ってきた先生たち、僕らはいいと思っていないですよ、まだまだ全然いいと思っていない。でも、そうやって言うのです。しかも一品多いのですって、境町は。五霞町の皆さん喜んでいるのです。五霞町の皆さんには、全部委託していたわけです。茶色い給食だって言われたのです。その会社がコロナで、もう五霞町のできないっていきなり断られて、五霞町困ってしまったからといってうちにお願いしてきて、議員さんと相談して今やったら、五霞の子供たちすごくありがたいって喜んでいるのです。

今回枝さんのご質問の中で、エアコンと言っていました。もうすぐ、僕はずっとやっているのです。今配りましたよね、全部やっているのです。毎年いろんなのを何百万も何千万もかけてやっているのです。この10年だけで、1億ぐらいかけて直しているのです。全部やっているのです。エアコンも、スポットクーラーの話もあった。それから、でっかいクーラー入れられないか、スペースがないから入れられないって言われているのです。電気屋にも見せた。では建て替えなければならぬではないですか、ではその財源どこから持ってくるのだ、ずっとやっているのです。僕らのさっき言ったように、何が6年だと思いますよ、6年なんてかかるわけないだろうというの。僕らは6年なんかかけてやらないよ、もう6年かかっていると思っている。僕らがやると言ったら、もう来年からやるのです、お金を用意して。それが仕事でしょう、だって。机上の空論とかばかりではなくて、お金をどうして用意するか、子供たちのために早くやってあげる。冷凍食品が何とか何とか、だったら全部委託した

らしいでしょうって。そんなことやっていないですよね、子供たちの食の安全のためにやっていないのです。地元のものを使ったりとか、自分たちがコントロールできるように、ずっと考えてやっているのです。何もやっていないわけではない。職員もそう、ずっと考えているのです、いろいろ。だから言ってきますよ、これ何とかならないと。だから、いつも聞きますよ、給食センター長に。何か足りないのあるかとか、これどうだって。いつも申し訳なさそうに来るよ、これこれだけかかってしまうのですけれどもって。分かったって言ってやる。さっき部品がないと言ったやつも、部品がないのです、直らないのですって来たから、業者に言って作ってもらった。そうやってやっているのです。苦労しながらやっているの、みんな。その苦労している人たちに対して、待ったなしって当たり前ですよ、待ったなしと思っているのだもの。ではお金はって。もうだから場所も用意しているでしょう、みんなにも説明したではないですか、あそこの今ウナギの前のところ空けてあるではないですか、あそこだったら五霞町も送りやすいかなとか。今お金があって、何でもいい、さらには何も考えずにやるなら、借金してどんどんやってしまうでしょうというの。それは誰が払うのですかって、今食べている子供たちでしょうというの。ようやく財政もよくなってきたのです、10年かけて。ようやく給食センターどうするかって、今ずっと言っているのですよ、僕は。ね、島根さん。補助金も、違う補助金探ってきてやると言つてやっているのだ、今。これだけ考えてやっているのに、何もやっていないみたいな言い方は、これは僕は失礼な話だと思う。ずっと考えているのだもの。

12年前、借金でひどかった町でしょうって。その頃僕らが何質問したって何にもやってくれないよ、お金ないの一辺倒だもの。合併しなかった。お金がない。借金で一番ひどい町だから。ずっとそうやって回答されているのだもの。それがようやくこれだけ財政が改善されてきて、貯金も増えてきて、しかもどの補助金を使ってやるかそこまで話しして、では来年には建て始められるかなって、そこまで来ているのに、そういう人たちに対して何もやっていないではないか、待ったなしになって、それは表面だけの話ではないのって、やることいっぱいあるでしょう。給食センターもそうだし、染谷川だってあれ何十億かけてやったの、冠水のやつ。さっき政雄さんも言ったとおり誰もやらなかつたでしょう、お金かかるから。町の人何て言うの、水没してしまうから何とかしてくれ、家住んでいられない、こんなに冠水するのだったら出ていくって。関東・東北豪雨のときなんか、ここから土手まで全部潜った、うちも車7台も9台も水没して、それでも何とかしなくてはと言って今やっているわけでしょう。るべきことをしっかりお金をかけてやっているわけです。それに対して、待ったなしなんて分かっています。分かっているし、やれることはやっているのです、あのスペースの中で。今まで何質問してもやってもらえないものね、僕らが議員の頃は、申し訳ないけれども。誰が悪いなんて言わないよ、お金がなかったらしようがない。何質問したって、申し訳ないけれども、ふるさと納税やるべきだと言つたってやらないよ。今はやれることは全部やっているつもりなの、本当に。給食センターも、さっき言ったようにもうみんなと相談して、来年から建て始めるような話をしているの。

枝さんの質問の中で僕はよかったですと思うのは、壊れたときどうするのですかって質問です。これももう指示したの。古河とか、それから八千代に、もしうちが壊れたときに提供してくれないかと、全部でなくていいからって、500食ずつとかできないかって。それすぐ協定できないか、みんな近隣の市町村に聞いてくれって、もうその指示を質問が出た時点でやったの。そうすれば、壊れたときだって融通してもらえるではないですか。ごみだってそうではないですか、今守谷があれだけ火災になってしまって、うちで受けたりしているのです。みんなで助け合わないと。だから、給食についていい質問だったなというのは、本当に壊れたときどうするのだと、そのとおりです。お弁当にするわけにもいかない、子供たちの栄養ですから。だから、そういう意味ではもう近隣の給食センター持っているところに協定して、融通してもらえるようなことをすぐやりなさいと言って指示をしました。これは非常にいいこと。

それと、さっき言った環境衛生安全、今の中では本当にエアコンだってつけたいのです。つけたくて言ったの、つける場所がないの、本当に。さらには、子供たちの逆の衛生のほう、作るほうの衛生上入れては駄目だというのもいっぱいあるわけ、それも聞いているわけ、こっちは。だから、環境を変えるのには、本当に建物を変えなければならないし、子供たちの食育を考えるなら自前でやらなければならないし、やっぱり五霞町さんもいることなので、五霞町さんにも負担をしてもらわなくてはならない話になるので、僕らは。とにかく維持費がかからないように、そして子供たちに安全な給食が行くように、申し訳ないけれども、働く人も重要かもしれないけれども、僕らの一番優先順位は子供たちの食なのです。その次に、やっぱり働く場所になっていくのです。ただ働く人たちも、では職員全部下げてしまって民間委託できるのかとか、そんなことも考えるのです、僕らは。だから、さっき言ったように6年だから待ったななんていうのは、それはちょっと頭から取っていただいたほうがいいと思う。僕らは、やると言ったらもう今からでもやりますから、本当に。やらないなんて言つていないですから。財源どうするか、それをずっと考えてきたのです。ようやく財源にめどが立ちそうで、なので先ほどの質問を端的に言えば、この二、三年ではできると思います、竣工まで。だけれども、どういうふうにやるか、何をするか、ONODERAさんなんかもいるので、ONODERAさんってL E O Cという給食で1,500億やっているのです。要は病院の給食とか、介護施設の給食とか、企業の給食とかをあの企業はやっているのです、全国の3,000か所。そういったところを利用したほうがいいのか、そういうのも考えていたのです。なので、先ほど言ったように枝さんの質問の中でよかったです、壊れたときにどうするのだということと、もう一つは計画です。聞いたら、この数十年給食の建て替え委員会というのではないのですって。僕の頭の中で考えて、執行部で考えているだけなのです。そういう委員会をつくって、どういうのが必要だとか、見に行こうとか、こうだとかというのやっていないのです。それはそれで形としてやるべきだなというふうには思ったので、この2つはやらなければいけないと思っています。

ですが、やっぱりいろんなことを考えていますから、最短でできるようには考えていますから、そ

して住環境というか、その働く環境もいいように何とかならないかというのは本当に考えているのです。なので、もう少し待っていただいて、職員さんもそうですけれども、本当に大変な環境の中でやつていただいているのは分かっておりますけれども、車も僕が就任したときには、給食センターから車が壊れてしまったのですって来たのですから。何年たっているのだ、その車と言ったら、四十何年だけ、48年ぐらい、48年車乗っていたのです。すぐ買い換えた。買い換えた後、今度は高さが合わないので、どうしましよう、改造しないとというのです、車の。それだったら、もう昇降台のほうを調整しろと、今の車に合わせたほうがいいだろうと言って、それでやったり、子供たちが上まで牛乳持っていくの大変だからって、牛乳持っていくようにエレベーターつけて、載せなかつたのですよ、エレベーターあったのに。エレベーターついたのに、給食の配膳載せなかつたのです。そんなのも全部聞いて、載せるべきだと言ってやっているのです。ですので、課題があればどんどん言っていただいて、解決できるものはやっていきますので、全く町が何にもやっていないと、ここまで来てしまって、こんなひどい住環境なのだというような、聞いて改善できるのはやっていますから、やれていないところでやれるのがあるのであれば、それは逆に提案をしていただいて、やりますから。なので、ぜひそこは誤解のないように、もうお金がないからやらないなんてことはないですから。どうしたらできるのだろう、どうしたらあれなのだろう、なのでこの10年で、修繕だけで1億かけていますから、本当に。今までもっと本当にひどかったのです。スポットクーラーだって5台入れたのですけれども、エアコンの設置場所がないので、ではスポットクーラーにするかといつてスポットクーラーにしたりした経緯なのです。逆に言えば、スポットクーラー駄目だって枝さんから来たから聞いたら、では何かないかといったら、電気屋さんも何にもないのですと、そんな話なのです。やっぱり住環境もしあれだったら、逆にコンテナとか持つていって、休む場所をエアコンがんがん効かせてあげて、そこで休みながらやるようにするとか、そういう改善の仕方しか今はないので、何もやっていないのだ、こういう環境なんて知らないでしょうではなく、知っていますから、聞いていますから。でも、頭を悩ませているのですよというのを知つていただいて、ではどうするかって、やっぱり最終判断は建て替えなのです。それを僕らとしては来年からやりたいというふうに思つてずっとやつてゐるの、逆に協力をしていただきたいというふうには思つてゐますので、よろしくお願ひしたいというふうに思います。

○議長（倉持 功君） ただいまの答弁に対し質問はございますか。

枝史子君。

○3番（枝 史子君） 答弁ありがとうございます。まず、町が何もやっていないというふうに取られたのでしたら、ちょっとそれはそういうわけではなく、私の質問の趣旨としては、とにかくエアコンのない調理場を見て、あそこで働いている方々が、もう毎日ご苦労されて作つてゐることに對して、何らかのもうちょっとといい環境が提供できないか、それが最終的に子供たちの給食の安全と質の向上につながるのではないかということで、そのような感じで質問させていただきました。

今の答弁の中で町長から、まずもう給食センターのめどは立っているのだということと、あとお金がないから造らないのではないという答弁をいただけたので、私としては今後、給食センターが進んでいるということが確認できたので、これから新しい給食センターにぜひ期待したいと考えております。

ちなみにですけれども、下妻市は今給食センターを計画しておりますけれども、やはり2,500食提供を考えていて、現時点で用地取得費を含まないで24億円という価格の概算が出ております。やはり給食センターというのは、設備もそうなのだと思いますけれども、非常にお金のかかることなのだというのは下妻の計画を見ても、私も理解してはおります。そのためになかなか、お金をどこから持ってくるのかというのが大変だというのも理解します。ただ、今後そのような新しい給食センターができるということで、私のほうとしても、ぜひ一議員として協力できるところはどんどんしていきたいとは考えております。

再質問ではありません。では、今回の私の一般質問はこれで終わりにいたします。

○議長（倉持 功君） これで、枝史子君の一般質問を終わります。